

## 平成26年度 やまがた農商工連携ファンド事業採択状況一覧

## 1 農商工連携事業(補助率:2/3、限度額:300万円/1事業、事業期間:3年以内)〈◎印は連携体事業者の代表者〉

	区分	農林漁業者	所在地	中小企業者	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1	海外展開等支援	◎船渡川 葉月	飯豊町	株式会社 コロン	山形市	花笠づくりの伝統を守るために菅傘・菅細工を世界へ	2年	船渡川葉月は新規就農者で農家レストランを営みながら花笠用の菅(すげ)の栽培と菅傘を生産しているが、菅細工の新たな市場開拓を模索していた。菅細工を高く評価している著名な工芸作家からは丁寧な手仕事や日本の伝統文化を評価してくれるヨーロッパ進出を助言されている。そこで、菅細工を理解してくれているデザイン企画会社のコロンと連携し、菅を使った新たな菅細工商品を開発しミラノコレクションなどに展示しながらヨーロッパへの輸出展開を図る。そして海外での評価を国内での再評価に繋げていながら、菅笠、菅細工という日本文化の魅力を発信し菅生産の後継者づくりに取り組んでいく。
2		農業生産法人 有限会社 ドリームズファーム	鶴岡市	◎有限会社 グローバルアイ	鶴岡市	巻き寿司専用包装米飯関連製品の開発と海外販路開拓事業	3年	ドリームズファームは農産物生産販売のほかに無菌米飯の製造販売を行っているが、付加価値の高い包装米飯の開発を検討していた。一方、グローバルアイは山形食材の海外輸出を目指してきており、和食ブームと相まって巻き寿司ニーズの高い仏国を対象に付加価値の高い包装米飯の輸出を模索していた。そこで両者が連携して、国内でも販売されていない巻き寿司専用の包装米飯及び関連する食材を開発し、仏国への輸出展開に取組み新たな需要開拓によるコメ生産の拡大と輸出拡大を図る。
3	ニューツーリズム展開支援	◎株式会社 アグリパークZAO	上市市	高畠ワイン 株式会社	高畠町	蔵王「多目的観光農業支援農園」中山間農地活用による農業観光事業	3年	アグリパークZAOは耕作放棄地(元県立蔵王西部放牧場)を活用した農業生産をしているが、新たに蔵王高原ワイナリー構想と先進的農業事業(営農型太陽光発電、小規模畜産放牧、炭素還元農法)構想を融合させた蔵王「多目的観光農業支援農園」農業観光を計画しており、その一環としてワイン用ぶどう栽培に向けて土壌調査や適正品種の栽培調査を行い、試験栽培を体験観光化していくもので、連携先である高畠ワインから栽培指導やワイン醸造技術の指導を受けながら取り組んでいく。
4	新商品・新サービス開発等支援	◎安達農園 代表 安達 進	山形市	株式会社 千代寿虎屋	寒河江市	オリジナルトマト「愛実」を利用したトマト酒・発泡性トマト酒の新商品開発	1年	安達農園は高精度フルーツマトの生産とゼリーやジュース等の加工品に取り組んでいるが、さらにグレードが高く差別化できる加工品開発を検討していた。一方、千代寿虎屋は地元で生産された果実原料を利用したスパークリングワインの商品開発を手がけてきていることから、両者が連携して、高糖度の特長を生かしたフルーツマト発泡性果実酒の開発と販路開拓に取組み、トマトフルーツ部門の所得拡大と発泡性果実酒の生産拡大を図る。
5		山形芋煮ファーム 株式会社	山形市	◎さとう農園 株式会社	山形市	山形県産里芋を粉末に加工。それを利用したアレルギーフリーの新商品開発	2年	山形芋煮ファームは昨年より「日本一の芋煮会フェスティバル」に使用する里芋の栽培をしており農業を使わない栽培と早い時期に出荷できる栽培の研究を重点に取り組んでいるが、1/3を占める規格外の活用が課題であった。一方、さとう農園は里芋の洗い芋加工の里芋専門店ですり芋の粉末化による新商品開発を検討していた。そこで両者が連携し里芋の粉末を使用したアレルギーフリーとして小麦粉の代替商品(麺類、パン類、お菓子類など)を開発し、里芋の生産拡大と県産里芋の全国へのPRを図る。
6		株式会社 月山じよいふる ふぁーむ	西川町	◎企業組合 スイーツキッチン	天童市	地域の農産物を活用した幼稚園、保育園等向けおやつ商品開発と宅配サービスの事業化	1年	月山じよいふるふぁーむ代表者は新規就農者で中山間地での農業生産・農作業受委託のほか消費者等との交流事業を行っており、食の安全に関する新たな取り組みを検討していた。一方、スイーツキッチンは新規創業で旬の農産物を使用した手づくりおやつを開発し保育園等に宅配する事業を検討していた。そこで両者が連携して、農産物を加熱、真空、冷凍し旬の栄養と味をそのまま保管し1年を通して加工できる商品の開発に取組むもので、今回の商品開発に沿った加工向けの計画栽培や規格外品の有効活用により所得増大と保育園等へのおやつ宅配事業を展開する。
7		◎有限会社 仲野観光果樹園	天童市	有限会社 ボンむらやま	天童市	オール天童市産「天童ごっつお〜(仮称)」の試作開発	2年	仲野観光果樹園は昭和57年から観光果樹園を経営しており、これまで地域の観光果樹園の組織化をリードし地域農業への貢献や退職者の再雇用、また集客アップのためのカフェの展開など観光農業に積極的に取り組んでいるが、土産販売において自家製ジュースしかなく観光客が気軽に買って帰ることができ、日持ちがよく土産を貰った人が山形県に興味関心を示してくれるような商品開発を検討していた。そこで県内でも高い技術を持ちこれまで数々の受賞歴がある菓子製造を手掛ける地元のボンむらやまと連携し、米粉と果物を原料とした和洋焼き菓子の商品開発に取組み、観光農業の経営拡大を図る。
8		出羽の郷しあわせファーム 株式会社	天童市	◎有限会社 半沢鶏卵	天童市	県産卵と県産啓翁桜を使用した新たな燻製卵商品の開発と販路開拓	2年	出羽の郷しあわせファームは環境省選定名水百選の「イバラトミヨ」が生息する小見川が流れるおいしい水とこだわり(ハーブ、乳酸菌などを与えた)飼料でにわとり飼育しているが、県内の養鶏業界は鶏卵の価格競争や県外競合の参入により経営が圧迫されており、更なる高付加価値型商品による収益確保が課題であった。そこで、半沢鶏卵との連携により、新たに山形県産のおからや米糖を配合発酵させた飼料による新たな山形県産のこだわり卵を原材料とし、さらに敬翁桜を燻煙材とした、地域と連携した高付加価値型の新たな燻製卵を開発し、ブランド力の更なるアップと養鶏経営の安定を図る。
9		◎石岡 浩明	寒河江市	クイジニエ 代表 大島 照代	寒河江市	パッションフルーツを使った加工品の開発	1年	石岡浩明は新規就農者で県内で唯一パッションフルーツの苗木と果実の生産販売をしているが、加工品開発による新たな販路を検討していた。パッションフルーツの加工品にはジュースやジャムがあるが、追熟されたものや、素材の含有量が少なく味が薄いものが殆どである。そこで、地元のフランス料理店「クイジニエ」と連携し、完熟したパッションフルーツのスイーツの開発を行い、パッションフルーツの生産拡大とスイーツ加工品の販路拡大を図る。
10		◎合同会社 さがえグリーンパーク	寒河江市	株式会社 煌コーポレーション	山形市	若にんにくを用いた新商品開発及び販路開拓	2年	さがえグリーンパークは独自の水耕栽培による「若にんにく(加熱することで一般的なにんにくよりもにおい残りが少ない特徴)を生産販売しているが、新たな需要拡大のための加工食品開発を検討していた。一方、煌コーポレーションはあこや会館のレストランを運営しており山形の食材を全国に発信する加工食品を検討していた。そこで両者が連携して、若にんにくと寒河江市特産品のさくらんぼやバラなどとコラボした新しいスタイルのにんにく商品の開発に取組み、新たな需要開拓による若にんにくの生産拡大を図る。
11		柏倉 松男	寒河江市	◎有限会社 さがえ山新サービス	寒河江市	高原野菜を使ったキムチの開発	2年	柏倉松男は寒河江市畑地区(標高700メートル)で秋野菜である大根や白菜などを夏から秋にかけて栽培し「葉山高原野菜」として出荷しているが、市場出荷が主であるため価格が安定しないことから、価格が安定した出荷先の確保が課題であった。一方、さがえ山新サービスは新聞販売のほか新たに農業分野への参入として平成24年に「葉山高原野菜」として商標登録し畑地区の野菜をブランド化する取り組みをしてきている。そこで両者が連携し、「葉山高原野菜のキムチ(葉山大根、葉山イカニンジン、白菜、葉山山菜等)の商品開発・加工販売を行い、「葉山高原野菜」の生産拡大と経営の安定を図る。
12		株式会社 ジオンジファーム	寒河江市	◎株式会社 ホテルシンフォニー	寒河江市	寒河江産にんにくを使った和風 にんにくペーストの開発とその二次利用によるメニュー開発	1年	ジオンジファームは耕作放棄地を活用して特ににんにくの生産と加工品を手がけており、更なる生産拡大と新商品開発を検討していた。一方、ホテルシンフォニーはホテル内レストランでの地域の食材を使った新メニュー開発を検討していた。そこで両者が連携して寒河江産にんにくを使用したトースト風和風 にんにくペーストの開発とその二次利用によるホテルでのメニュー開発を行い、一般小売用と業務用の新たな需要開拓によるにんにくの生産拡大と新たなメニューによる利用客増を図る。
13		◎丸松農園 株式会社	寒河江市	佐竹商事 株式会社 株式会社 丸松青果	寒河江市 寒河江市	旬の果物を活用した新商品「地域代表粗搾り100%天然ジュースの開発及び販路開拓」	2年	丸松農園は山形県の特産品のさくらんぼ、桃、ラ・フランス、枝豆・トマト等を生産し農園店頭等で直売しているが、更なる付加価値を上げるため加工品開発を検討していた。そこで、JAS認定工場でもある佐竹商事(果物の缶詰や瓶詰商品、100%天然ジュースの製造販売)と青果卸会社の丸松青果と連携し、水も砂糖も加えず果実を裏漙しすることで、果実の中に果皮の混じった新しい食感の「地域代表粗搾り100%天然ジュース(果肉と果皮の間のポリフェノールを豊富に含む食べるジュース)の新商品開発を行い、新商品の販路開拓と果樹生産の安定を図る。
14		◎田中畜産 代表 田中 清	飯豊町	株式会社 米沢食肉公社	米沢市	米沢牛・いいで田中牛を活用したブランド肉加工品開発	1年	田中畜産は米沢牛を肥育しており、米沢牛枝肉共進会においてチャンピオン牛を産出している畜産農家であるが、更なる食肉流通量の拡大を目指し食肉加工品の開発を検討していた。そこで、食肉加工で実績のある米沢食肉公社と連携しながら、と畜した際に発生する端肉を中心に活用し、米沢牛(ソーセージ、ブロックベーコン)や飯豊田中牛(パイオン、ミートボール、ハンバーグ)の新たな食肉加工品の開発と販路拡大を行い畜産経営の安定を図る。

## 2 農商工連携支援事業(補助率:10/10、限度額:200万円、事業期間:1年以内)

	申請事業者	所在地	事業計画名	事業期間	事業概要
1	株式会社 フィデア総合研究所	山形市	「やまがた6次産業ネットワーク・チーム25」を中心とした商品開発と販路開拓・拡大、まちなか賑わい創出事業	1年間	やまがた6次産業ビジネス・スクールの第5期修了者を中心に構築された連携体「やまがた6次産業ネットワーク・チーム25」が行う農産物、加工品等の展示・試食会の開催告知宣伝等の支援、新商品開発や効果的な販売方法を学ぶ研修会、首都圏への販路拡大を目指して都内の飲食店等と連携して生産者の食材を使用した食事メニューを飲食店等に提供する事業を支援する。
2	おいしい山形推進機構	山形市	県産農産物等輸出拡大支援事業	1年間	出荷から販売までのバリューチェーンの調査やマーケットリサーチ等を行い、県産農産物やその加工品を輸出している事業者等にその情報を提供することで、海外への販路開拓を支援する。
3	やまがた食産業クラスター協議会	山形市	山形ならではの新商品開発・新たなビジネス化支援・販路開拓支援事業	1年間	展示会への出展支援を行い、農林漁業者と食品製造業者の連携体を作り出した、県産農産物を活用した商品を県外に広くPRすることで、販路開拓を支援する。
4	山形県紅花生産組合連合会	山形市	県産紅花を活用した新商品開発支援事業	1年間	紅花の産地と食品加工業者等が連携し、食用紅花(乱花)を活用した新たな新商品開発の取組み新たな需要確保による産地拡大を図るため、産地、食品加工業者等の連携による食用紅花(乱花)を活用した新たな新商品開発の取組みを支援する事業を支援する。